

# 『発掘宇治'07』

平成19年度 発掘調査・文化財速報



庵寺山古墳公開（11月）



宇治市街遺跡  
軒丸瓦（平安時代）



西浦遺跡現地説明会（4月）



乙方遺跡出土  
有舌尖頭器



宇治市街遺跡  
井戸（江戸時代）



宇治川護岸遺跡現地説明会（9月）



文化財防火デー（1月）



旦棕遺跡現地説明会（8月）

## 宇治市歴史資料館

平成20年3月22日発行

# 天下人太閤秀吉の夢のあと

## ～宇治川護岸遺跡（太閤堤）の発掘調査～



『太閤堤』 文禄三年（1594）豊臣秀吉の伏見城築城に伴い、宇治川の川筋付け替えに関連して築かれた宇治から向島までの「槇島堤」、向島から小倉までの「小倉堤」と、淀川右岸の淀堤など淀川水系に施された大土木工事の総称として太閤堤という用語が使われています。そして槇島堤は、宇治川左岸の現堤防内に埋没しています。発掘調査では、宇治橋の下流400mの調査地で約250mにおよぶ護岸遺構を確認しました。

護岸遺構は、使われている石材や遺物から、太閤堤と一連のものであることは間違いなく、江戸時代後期の洪水で一気に埋まったため、当時の状態で発見できました。また治水技術が確立される以前のものであるために、護岸形状の違いや、築城技術の援用など様々な工夫がみられます。

日本の大規模治水開始初期の姿を伝える遺跡として注目されています。





石出し（下流側から）



石積み護岸全景（上流側から）

『水はね』 今回見つかった護岸遺構の特徴として、護岸本体を強い水流から守るために、川に突き出して造られた「水はね」という構造物があります。その造り方から、割石のみで造られたものを「石出し」、杭を並べて造られたものを「杭出し」と呼びます。護岸本体の残りのよさから、しっかりと機能していたことがうかがえます。



護岸発見当初の様子



発掘調査風景



石出し部分の発掘調査風景



石積み護岸



杭止め護岸

『護岸形状の違い』 今回確認した護岸には、主に割石で造られ川側に傾斜面を持った「石積み護岸」と、杭や板材で割石を支え垂直に造られた「杭止め護岸」があります。それぞれの護岸形状は、近世に発達する工法の原点を見ることができます。

# 今年の資料館は、このような文化財の活動をしました！



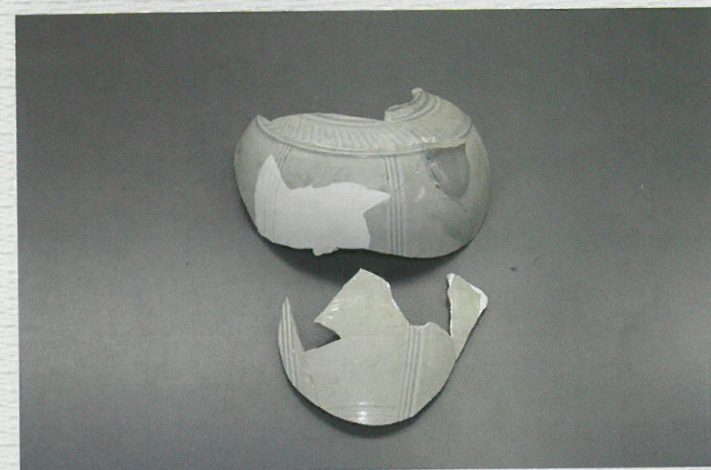
## 巨椋遺跡の発掘調査

巨椋遺跡は、6～7世紀の古墳や7～8世紀の集落の複合遺跡で、古墳4基・竪穴住居跡7棟等を確認しました。今回の調査から巨椋遺跡の始まりが4世紀頃まで遡ることがわかりました。また出土例の少ない鳥形の硯の蓋も出土し、その特殊性が注目されます。



## 西浦遺跡の発掘調査

西浦遺跡は、木幡池と奈良街道の間に広がる古墳時代後半から室町時代にかけての集落遺跡です。今回はマンション建設に伴う発掘調査を行い、深さ7mの平安時代の井戸や、幅7m・深さ4mの桃山時代の濠など様々な遺構を確認しました。



## 宇治市街遺跡の発掘調査（宇治宇文字）

宇治市街遺跡は中宇治一带に広がる集落遺跡で、平安時代後期には藤原氏の別荘造営による碁盤目の街区が形成され現在に継承されています。

今回の調査では、東西幹道に接する建物跡などを確認し、貴族の別荘を思わせる中国製の白磁の水差しなども出土しました。



## (仮称) お茶と歴史のまち宇治の文化的景観

文化的景観とは、長年にわたる人々の生活や生業など近年その姿を消しつつある伝統的で個性的な地域文化の動的な保存を目指す風土の重要文化財です。

宇治では「お茶と歴史のまち宇治の文化的景観」として重要文化的景観の選定を目指しています。